

# 聖学院大学 地域連携事業報告

# 2020



オリジナル絵本の読み聞かせを保育園の子どもたちに向けてオンライン上で行う学生たち

聖学院大学地域連携・教育センター

# 目次

はじめに.....	1
<b>1. 地域連携・教育センターの活動 .....</b>	<b>2</b>
1-1 聖学院大学の地域連携の方向性.....	2
1-2 聖学院大学と地方自治体との協定.....	3
1-3 地域連携・教育センターの動き.....	5
1-4 地域連携の具体的な相談事例紹介.....	6
1-5 助成金による支援（ボランティア・まちづくり助成事業）.....	8
1-6 地域と連携した SDGs の推進.....	9
<b>2. 学長裁量経費による地域連携の推進 .....</b>	<b>12</b>
2-1 学長裁量経費について .....	12
2-2 産学官連携と SDGs 推進のためのネットワーク形成とアクション .....	12
2-3 オンライン TOEIC 対策集中講座:SEIG キャンプ.....	13
<b>3. 地域と連携する授業.....</b>	<b>15</b>
3-1 インターンシップ（企業研修型）（全学共通） .....	15
3-2 インターンシップ（PBL 型）（全学共通） .....	16
3-3 地元学（全学共通） .....	17
3-4 宮原地域学（全学共通） .....	17
3-5 釜石学（全学共通） .....	18
3-6 コミュニティサービスラーニング（CSL）Ⅰ・Ⅱ（全学共通） .....	18
3-7 ボランティア体験の言語化技法と実践（全学共通） .....	19
3-8 被災地支援・インターンシップ A～C（全学共通） .....	20
3-9 地域活動実習 A～C（全学共通） .....	20
3-10 ボランティア論・概論（政治経済学部・心理福祉学部） .....	21
3-11 ボランティア実践論（政治経済学部・心理福祉学部） .....	21
3-12 埼玉学（人文学部） .....	22
<b>4. 高大連携.....</b>	<b>23</b>
4-1 復興支援活動を通じた高大連携 .....	23

4-2	高大連携授業	23
4-3	ボランティア関連授業を通じた小中高大連携	24
4-4	その他の学校間連携	25
<b>5.</b>	<b>教職員と学生による地域活動</b>	<b>26</b>
5-1	みつけたかおのものがたり～どこでもえほんプロジェクト～ (柴崎裕ゼミ：造形教育論)	26
5-2	アッピー応援隊(寺崎恵子ゼミ：教育文化論)	27
5-3	パワフルキッズ(金谷京子ゼミ：発達心理)	27
5-4	上尾市平方河岸文化の保存活動	28
5-5	聖学院大学総合図書館による地域連携活動	29
5-6	ハローコーナーニュース ベトナム語版の発行に関わる翻訳	30
5-7	ほたる祭り	31
5-8	復興支援“オンライン”スタディツアー	32
5-9	ボラフェス!	33
5-10	未来をひらく～私と3.11のこれまでとこれから～	33
5-11	特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進	34
5-12	子ども大学 あげお・いな・おけがわ	35
5-13	釜石市保育士インターンシップ	35
5-14	大谷地区自主防災啓発事業	36
5-15	オール上尾市民活動ネットワークとの連携	36
<b>6.</b>	<b>公開講座</b>	<b>38</b>
6-1	聖学院大学公開講座	38
6-2	履修証明プログラム	39
6-3	社会人を受け入れる教育プログラム	40
<b>7.</b>	<b>地方自治体の委員会・審議会等の委員</b>	<b>42</b>
<b>8.</b>	<b>聖学院大学地域連携・教育センターのご案内</b>	<b>46</b>

## はじめに

大学は教育研究の場であるだけでなく、その教育研究の成果を社会の発展に役立てなければならないとして、広く社会への提供が求められています。社会の様々な課題を、大学の教育力研究力と繋げながら解決してゆこうとするものです。

そのため本学では、次の3つの方針を立てて、地域との連携と学生の教育、大学の研究を一体化して進めることにしました。

### 1. 地域を対象にした学び（課外活動を含む）

地域の歴史・文化・産業・生活を学ぶ。

地域での体験・活動を通して、教室での学びの確認・実践・深化を図るとともに、実践力、対話力、共感力を強化する。

地域という身近な教材を活用して、学ぶ意識を醸成・強化したり、学びのテーマを発見したりする。また、多種多様な人との出会いを通して、将来の進路を見つける。

身近な活動場所である地域において、「手伝う・参加する」から、「つくる・企画する」へと地域への関わり方を深化させる。

### 2. 地域を対象とした研究

地域の問題・課題の分析及び改善・解決に関する研究や、地域の事例を扱った研究を進める。研究の成果は、地域へフィードバックする。

### 3. 地域への貢献

本学の特色を活かした社会的役割の具現化を図る。

地域との望ましい関係性を構築し、維持する。

（聖学院大学ホームページより）

この方針の実現のための営みが、近年学内でも少し盛んになっており、その一端をご報告いたします。ご参考いただき、これを機に地域の皆さんとの協働がさらに進むことを願います。

聖学院大学地域連携・教育センター所長/基礎総合教育部教授  
渡辺 正人

# 1.地域連携・教育センターの活動

## 1-1 聖学院大学の地域連携の方向性

聖学院大学では、地域連携・教育の方針として、2017年に次のような方針を決定しています。

### 聖学院大学 地域連携・教育方針

大学と地域は、対等な立場で、相互理解を深めながら、共に成長し合う関係である。そのため、本学は、地域での学生の学びに際して地域貢献を心掛け、地域活動において市民や学生など関わる人々の学びや成長を大切にする。

このような地域連携・教育を通して、学生が本学の教育目標である「良き隣人となる」ことを目指す。学びや活動の一つひとつ積み重ねることにより、周囲の人々にとっての良き理解者・パートナー、時に支援者や伴走者になることである。このことが、多様な人々と共に生きる共生社会を、地域に形成することにつながる。

#### 1. 地域を対象にした学び（課外活動を含む）

##### 【方針】

- 地域の歴史・文化・産業・生活を学ぶ。
- 地域での体験・活動を通して、教室での学びの確認・実践・深化を図るとともに、実践力、対話力、共感力を強化する。
- 地域という身近な教材を活用して、学ぶ意識を醸成・強化したり、学びのテーマを発見したりする。また、多種多様な人との出会いを通して、将来の進路を見つける。
- 身近な活動場所である地域において、「手伝う・参加する」から、「つくる・企画する」へと地域への関わり方を深化させる。

##### 【方法】

- サービス・ラーニング
- ゲストスピーカーによる授業・講演
- 多様な人々との交流
- 施設等の見学・視察、まち歩き
- ボランティア活動 など

#### 2. 地域を対象とした研究

##### 【方針】

- 地域の問題・課題の分析及び改善・解決に関する研究や、地域の事例を扱った研究を

を進める。

- 研究の成果は、地域へフィードバックする。

**【方法】**

- 行政や企業などとの協働研究

3. 地域への貢献

**【方針】**

- 本学の特色を活かした社会的役割の具現化を図る。
- 地域との望ましい関係性を構築し、維持する。

**【方法】**

- 大学の施設（図書館、グラウンドなど）の開放
- 地域に開かれた大学：授業の開放、公開講座の開催、学園祭、大学創立記念音楽祭、ほたる祭りなど
- 地域・地域の企業・役所等への出前講座
- 地域問題解決への参画
- 行政設置委員会での委員活動
- ボランティア活動

2017年12月13日大学教授会承認



## 1-2 聖学院大学と地方自治体との協定

聖学院大学では、地域連携を強化するため埼玉県内の自治体との包括協定を始め、東日本大震災の復興支援がきっかけで、岩手県釜石市との連携協定を締結し、各自治体と緊密な連携を図っています。

### (1) さいたま市と聖学院大学との連携に関する包括協定

締結日：2013年3月29日

#### 連携事項

- ① 健康・福祉に関する事項
- ② 地域の活性化に関する事項
- ③ 人材の育成に関する事項
- ④ 学術研究や教育に関する事項
- ⑤ 災害対策に関する事項
- ⑥ その他両者が協議して必要と認める事項

(2)上尾市と聖学院大学との連携に関する包括協定

締結日：2013年9月27日

連携事項

- ① 地域資源を活用した経済・産業・地域活動の振興に関する事
- ② 健康・福祉の向上に関する事
- ③ 人材育成に関する事
- ④ 学術研究および教育に関する事
- ⑤ 災害対策に関する事
- ⑥ その他、目的を達成するために必要な事項

(3)春日部市と聖学院大学との包括的連携協定

締結日：2014年4月22日

連携事項

- ① 地域政策に関する事
- ② 健康・福祉の向上に関する事
- ③ 人材育成・交流に関する事
- ④ 地域の活性化に関する事
- ⑤ 生涯学習の推進に関する事
- ⑥ その他前条の目的を達成するため必要な分野に関する事

(4)釜石市と聖学院大学との連携に関する協定

締結日：2014年1月29日

連携事項

- ① 子どもの健全育成と保健福祉の推進に関する事
- ② 地域の活性化に関する事
- ③ 復興支援等に関する事
- ④ その他両者が協議して必要と認める事

(5)その他の協定について

特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定

締結日：2014年7月18日

締結先：埼玉県

目的：少子高齢化が進行する中で特別県営上尾シラコバト住宅における諸課題に対応する研究や取組等を進めることにより、団地の共助による活性化、良好なコミュニティ形成等に資すること

## 1-3 地域連携・教育センターの動き

### (1) 活動の目的と経緯

2012年4月にそれまでも取り組まれてきた地域における学生ボランティア活動への支援と2011年3月11日に起きた東日本大震災への支援を継続的に行うため、ボランティア活動支援センターが設置されました。翌2013年4月1日に「自治体、企業、NPOなどの地域諸団体と連携し、大学として社会貢献の機能を果たすとともに、聖学院大学学則第2条に基づき、地域活動に参加することにより『実践的に成熟し、民主的な社会人としての良識と見識をもった有為の人間を育成する』教育的使命を遂行する」ことを目的に地域連携・教育センターが設置されました。

### (2) 活動内容と実績

#### ①自治体との協定に基づく連携調整

埼玉県、さいたま市、上尾市、春日部市、釜石市と締結した協定に基づき、自治体・大学の要望に応じて、各種委員の推薦、講師の調整、連携事業の実施に向けた調整を行っています。協定を締結していない行政や教育機関等からの各種依頼に対して調整を行っています。

#### ②地域団体・企業との連携調整

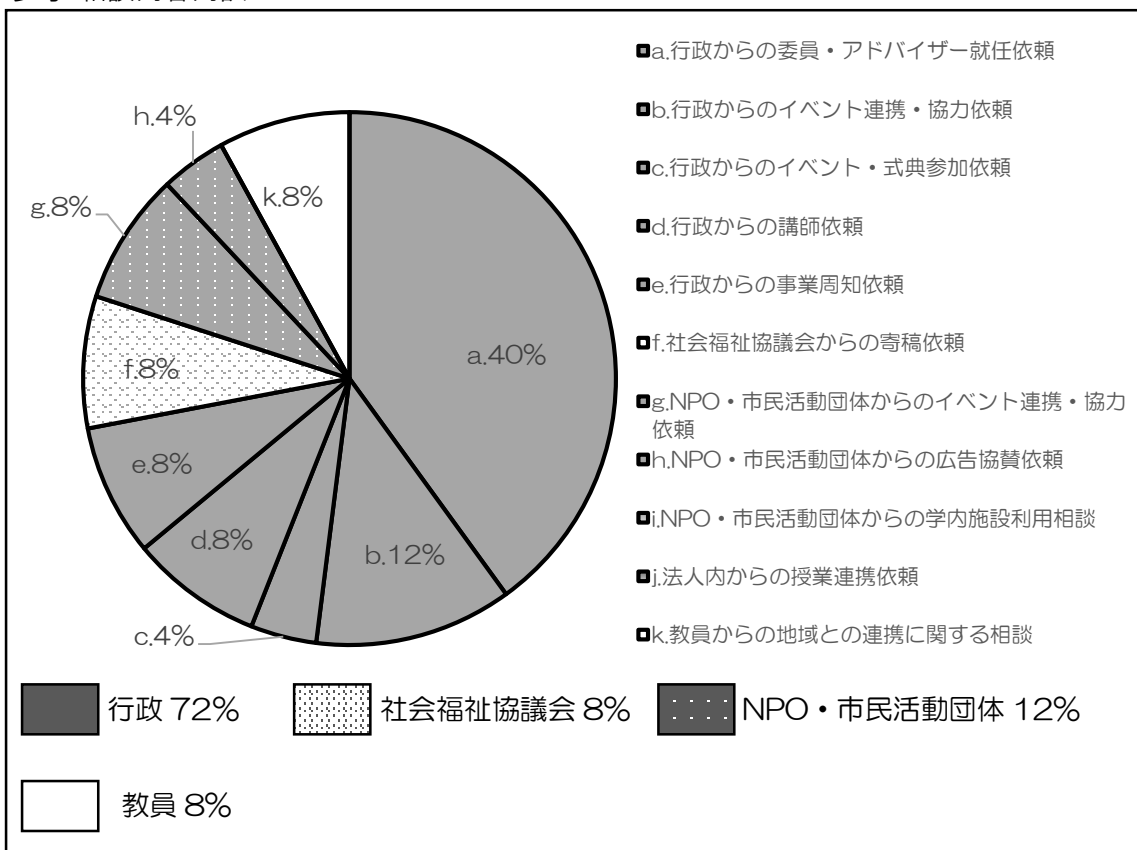
大学の最寄り駅のJR宮原駅周辺の商工関係者で構成される「さいたま北商工協同組合」を始め、大学周辺の企業・NPO等と連携し、事業実施に向けた調整を行っています。

参考:2020年度地域連携・教育センター相談対応件数

月	相談件数	マッチング件数	月	相談件数	マッチング件数
2020年4月	2	2	10月	-	-
5月	1	1	11月	1	1
6月	5	3	12月	2	2
7月	1	1	2021年1月	2	2
8月	2	-	2月	1	1
9月	3	3	3月	5	3
			合計	25	19



参考：相談内容内訳



③大学と地域が連携して行う事業の支援

大学と地域が協働して取り組む事業において、支援を行っています。具体的な事業については、2章（12ページ以降）、5章（26ページ以降）で紹介します。

(3) 担当部門

担当部署：地域連携・教育センター

## 1-4 地域連携の具体的な相談事例紹介

(1) 地域からの相談事例

相談日	2020年6月2日
相談者	上尾市市民協働推進課
相談内容	8月開催の市主催の防災訓練で、通訳ボランティアが避難所を巡回して外国人避難者を支援する内容の訓練を実施する。その訓練に協力して下さる外国人の方を探している。関心のある方がいたらお声がけしたい。

対応内容	新型コロナウイルス感染拡大により、大学外におけるあらゆる学生生活活動が中止となっていたため、本件について学生の調整をすることができなかった。
------	--

相談日	2020年9月1日
相談者	上尾市立上平中学校
相談内容	中学校で実施している校外学習プログラムとして、聖学院大学で国際理解をテーマにした授業への協力をお願いしたい。
対応内容	2021年2月に実施する方向で準備をしていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、授業が中止となった。
成果等	オンライン開催等も含めた可能性を模索したが、最終的に実施を見送ることとなった。2020年度はコロナの影響で多くの事業が中止となった。

相談日	2020年9月2日
相談者	上尾市社会福祉協議会
相談内容	上尾市社会福祉協議会で発行している「社協だより」に、聖学院大学教員の寄稿をお願いしたい。
対応内容	寄稿の具体的なテーマをいただき、そのテーマに該当する教員による寄稿が行われた。
成果等	寄稿については、その後も年3回の発行に合わせてテーマをいただき、都度専門分野の教員による寄稿が続いている。

## (2) 学内からの相談事例

相談日	2020年6月15日
相談者	児童学科 柴崎裕特任教授
相談内容	3年生のゼミでは、自粛生活に伴うオンライン授業の中で、幼児、小学校低学年向けのパワーポイント絵本を作成している。作品制作だけでなく、子どもに向けた発表会も企画するように指導しているところであり、保育関係施設からこのようなボランティア企画の要望があれば教えてほしい。また、オンラインでのイベントについてもよい活動の場があったら教えてほしい。
対応内容	ボランティア活動支援センターにて、タイミング良く鶴ヶ島市社会福祉協議会と連携してオンライン活動を模索している最中だったので、保育園でのニーズがあるかボランティア活動支援センターを通じて確認、調整を行った結果、鶴ヶ島市内の保育園とのオンライン活動を行うことが決定した。

成果等	5章 5-1 でも紹介している通り、鶴ヶ島市社会福祉協議会を通じて2020年8月24日(月)に社会福祉法人白桜会笹久保さくら保育園、2020年12月11日(金)に社会福祉法人愛宕会あたご保育園の園児に向けてオンラインでのパワーポイント絵本の読み聞かせや交流活動を行ったほか、上尾市・さいたま市を拠点に活動している認定NPO法人彩の子ネットワークが事務局となって実施している「子ども☆夢☆未来フェスティバル2021」のプログラムの1つとして2021年3月21日(日)に同様の活動を行った。
-----	---

## 1-5 助成金による支援(ボランティア・まちづくり助成事業)

### (1) 活動の目的と経緯

学内で地域連携や地域貢献活動に取り組む学生団体(ボランティア団体)やゼミ活動への支援として、2015年度から大学同窓会と連携し総額30万円の助成を行っています。助成にあたっては、公開審査会におけるプレゼンテーションや事業終了後もポスターセッション方式による報告会が行われます。そのため、助成金申請を通して、自分たちの「伝える力=プレゼン力や事業計画づくり」を磨くとともに、地域の方々や先輩・教職員等多くの人が応援していることを実感すること、さらに、地域の方々に、学生の活動を知っていただくと共に彼らが行き届く「地域の課題」について知っていただくことにつながっています。また、公開審査会の際には来場者が任意で学生を直接応援できるシステムである「ドネーションパーティー」を導入し、学生と地域の方々が直につながるきっかけの場にもなっています。

今年度は新型コロナウイルスの影響で助成金の審査会やそもそもの活動申請を行う団体がいるのか等の課題がありましたが、全面オンライン化することで助成を継続することができました。申請団体もコロナ後の活動を見据える団体やオンライン化で新たな活動を展開する団体など、コロナ禍においても様々な提案が行われ、助成金を獲得して活動を展開しました。

### (2) 活動内容と実績

#### ① 実施スケジュール

日程	実施内容
6月29日(月) 30日(火)	オンライン説明会兼研修会
7月18日(土)	オンライン面談
2021年 1月8日(金)	オンライン活動報告会

## ②審査員

NO	選出枠	肩書	氏名（敬称略）
1	地域の方	上尾市ボランティア連絡会 会長	本城文夫
2	地域の方	さいたま北商工協同組合 副理事長	新井一年
3	専門家（ボランティア関係）	社会福祉法人上尾市社会福祉協議会 上尾市ボランティアセンター	岡田淳一
4	専門家（NPO 関係）	NPO 法人街のひろば理事長／NPO 法人 インターメディカル相談支援専門員	松浦康介
5	大学同窓会	会長	秋谷大輔
6	ボランティア応援卒業生	株式会社 LITALICO 放課後等デイサービス指導員	菅野雄大
7	大 学	ボランティア活動支援センター所長	若原幸範
8	大 学	地域連携・教育センター所長	渡辺正人

## ③ 申請団体と助成額

NO	団体名	所属数	事業名	申請額	決定額
1	パワフルキッズ	9名	ミラコバト	21,000円	21,000円
2	聖学院大学復興支援ボランティア チーム SAVE	38名	一期一会のつながりと震災の学び の継続をオンラインで	24,000円	24,000円
3	みつけたかおのものがたり ～どこでもえほんプロジェクト～	15名	みぢかからみらいへ	50,000円	48,500円
4	未来をひらく 2021	5名	今、私たちが出来ること	50,000円	50,000円
5	学生ボランティア団体 STEP.	22名	若い力で東北を笑顔に！	50,000円	48,500円
6	あそび場オンラインプロジェクト	5名	あそび場オンラインプロジェクト	50,000円	29,000円
7	釜石〇〇プロジェクト	5名	釜石〇〇プロジェクト	50,000円	29,000円
8	若者の就労支援ネットワーク ムーミンの会	5名	若者が若者のために作る居場所	16,000円	0円
				合計 250,000円	

### (3) 担当部門

担当部署：ボランティア活動支援センター

## ➤ 1-6 地域と連携した SDGs の推進

### (1) 活動の目的と経緯

聖学院大学が属している学校法人聖学院は、2018年4月に法人の教育がめざすものと同じ方向性を持つ目標である国連のSDGs（サステイナブル・デベロップメント・ゴールズ）の推進活動を展開する国連グローバル・コンパクトへ署名をし、グローバル・コンパクトネットワークジャパンの会員に加入しています。

そのため、大学としても学内のみならず地域と連携した SDGs の推進を図っています。2020 年度に地域と連携しながら実施した SDGs 関連の事業について紹介します。

## (2) 活動内容と実績

### ①春日部市 SDGs パートナーズへの加入

春日部市では「春日部市 SDGs 推進方針」を策定し、様々なステークホルダーと共に SDGs を推進し、持続可能なまちづくりを目指しています。その関係から、SDGs に関して既に取り組んでいる団体や、これから取組を進めて行こうと考えている団体相互の連携を推進するため、「SDGs パートナーズ制度」が立ち上がりました。包括連携協定を締結している本学として、2020 年 6 月に本制度に登録を行い、SDGs の推進に向けて連携を図っています。その内容は、以下のように春日部市のホームページにも掲載をされています。



かすかべ SDGs パートナーズ

<http://www.city.kasukabe.lg.jp/shisei/shisaku/sdgs/sdgspartners.files/22.pdf>

### ②公開講座「知りたい！SDGs」への講師（教員・学生）

派遣

日時：2020 年 10 月 7 日(水)

会場：上尾市文化センター201 集会室

主催：上尾市市民活動支援センター

内容：上尾市市民活動支援センター主催の公開講座「知りたい！SDGs」において、本学の西海洋志准教授が講師として招かれ、講演を行いました。SDGs について、基礎から事例までお話したあと、本学の学生 2 名による SDGs に取り組んだ事業の報告も行いました。当日は、32 名の参加がありました。当日の様子は、下記の上尾市ホームページからもご覧になれます。



<https://www.city.ageo.lg.jp/page/005120101301.html>

### ③NPO オール上尾市市民活動ネットワーク SDGs チームアドバイザー就任

市民が抱える諸課題について調査研究し、効果的な対話と学習を通じて、会員が合意した内容について公平公正な立場で情報を発信し、実践することを目的とした団体である「NPO オール上尾市民活動ネットワーク」より、2020 年 5 月にネットワークの SDGs チームへのアドバイザー就任への依頼があり、地域連携・教育センター所長である渡辺正人教授が就任を

することになりました。

※詳細は、5章 5-15 オール上尾市民活動ネットワークとの連携を参照。

## 2. 学長裁量経費による地域連携の推進

### 2-1 学長裁量経費について

「学長裁量経費」は、聖学院大学において、建学の精神のもと、学部学科の枠を越えて大学の教育・研究の深化発展を促すため、学長の裁量によってその配分及び支出を決定することができるものです。

学長裁量経費の趣旨及び用途に合致した事業計画案を公募しており、そのなかでは、「本学における社会貢献活動又は地域連携活動のための措置に要する費用」が用途のひとつとして位置付けられています。

公募対象者：本務教員（専任及び特任教員）、本務職員（総合職及び特定職全職員）

### 2-2 産学官連携と SDGs 推進のためのネットワーク形成とアクション

#### (1) 活動の目的と経緯

埼玉県下の SDGs への取り組みを始めている企業や自治体をはじめさまざまな団体との連携を模索し、ともに勉強会などを行いながら具体的なアクションを連携してゆくための緩やかなネットワーク形成を行います。これらを積み上げ人間関係を形成してゆく中で、SDGs 達成のための具体的なアクションを協働で取り組むことができるような、ある程度恒久的なプラットフォーム形成へと繋げていきます。（2020年度はコロナ禍の影響で学内での活動が主になりました。）



新聞紙ごみ箱づくりワークショップの様子

#### (2) 活動内容と実績

##### ①環境ワークショップ

環境問題への関心や意識を高め、小さくても自分の周りのできることから始めてみようというコンセプトの下、「新聞紙ごみ箱づくりワークショップ」（2020年11月10日、学生16名、教職員7名参加）と「みつろうラップづくりワークショップ」（2021年3月9日、学

生 6 名、教職員 4 名、一般 4 名参加) を開催しました。

#### ②「SDGs de 地域創生」カードゲーム体験会

2021 年 2 月 22 日、学内の教職員 11 名を対象に、「SDGs de 地方創生」カードゲームの体験会を実施しました。また、同カードゲームの公認ファシリテーター資格を教職員 2 名が取得し、計 3 名の教職員が公認ファシリテーターとなりました。今後、教育や産学官連携において同カードゲームを有効活用していく予定です。

#### ③SDGs & Seig Newsletter

2020 年度における上記の活動と成果を詳しく記録・紹介するとともに、今後の活動への参加呼びかけに活用するため、「SDGs & Seig Newsletter 2020-2021」を発行しました。

#### (3) 担当部門

担当部門：プロジェクト 4 (産学官連携+SDGs 推進+ダイバシティ推進)

担当教員：若原幸範准教授、西海洋志准教授

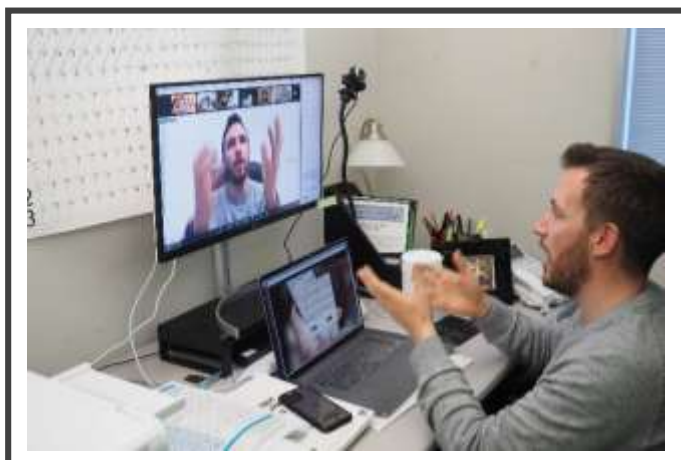
## ➤ 2-3 オンライン TOEIC 対策集中講座：SEIG キャンプ

#### (1) 活動の目的と経緯

全学科の在學生と入学予定者を対象に、TOEIC 対策オンライン集中講座を実施し、積極的な英語学習の機会を与えると共に、本学が英語教育に重点を置いていることを、学内外に発信することを目的としました。

#### <概要>

今年度新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け中止した英語スピーチコンテストに代わり、TOEIC 対策のオンライン講座を、在學生及び入学予定者計 60 名を対象に参加費無料で実施する。AEON 社に依頼し、2021 年 2 月 15 日 (月) ~2 月 18 日 (木) に渡り、1 日 7 時間のプログラムに講師も派遣してもらう。最終日には、国際ビジネスコミュニケーション社にオンラインの TOEIC-IP の実施を依頼する。



SEIG キャンプの様子

#### (2) 活動内容と実績

今年度新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け中止した英語スピーチコンテストに代わり、TOEIC 対策のオンライン講座を、在學生及び入学予定者計 60 名を対象に参加費無料



で実施しました。AEON 社に依頼し、2021 年 2 月 15 日（月）～2 月 18 日（木）に渡り、1 日 7 時間のプログラムに講師も派遣してもらいました。最終日には、国際ビジネスコミュニケーション社にオンラインの TOEIC-IP の実施を依頼しました。

初日に学生のクラスはレベル別に 2 つに分け実施し、参加者は 32 名でした。

当初の計画では 60 名の参加を計画していたのだが、コロナ禍の影響によって、受講条件が厳しくなりました。それでもなお、32 名の参加者を集めることができたのは大きな成果としています。毎日学生アンケートを実施し、日々の成長を確認することによって、学習意欲を高めることに成功しました。最終的には大半の学生において TOEIC スコアが向上しました。

### (3) 担当部門

担当部門：英語教育委員会

担当教員：ローランド・ロバート助教（英語教育委員長）

## 3.地域と連携する授業

### 3-1 インターンシップ（企業研修型）（全学共通）

#### (1) 学びの意義と目標

改めて言うことではないかもしれませんが、大学生として過ごす時間は有限であり、やがて大学を卒業する時期がやってきます。どのように過ごしたら「良い大学時代だった」と卒業時に自信を持って言えそうですか？また、大学卒業後はどんな人生を送っていきたいと考えていますか？

これらの質問への「あなたなりの答え」を見つける（あるいは生み出す）力がつく、それがこの授業で学ぶ意義です。

進学、就職、留学、あるいは起業等、卒業後の進路には様々な選択肢があります。就職するにしても、どんな企業に就職するのか・・・これはひとりひとり違います。あなたにとってのベストな選択はあなたにしかわかりません。だからこそ、「自分にとっての答え」を考え、選択する力が必要なのです。

本授業で経験する、事前研修・インターンシップ実習・事後研修・成果発表、こうした一連の経験を通して、自分に対する理解や、仕事に対する理解を深めます。同時にコミュニケーション力や行動力といった社会で求められる基礎力を高めていきます。そうした経験や学びを通して、卒業後の将来のことやこれからの大学生活のことを、より深くリアリティを持って考えられるようになるでしょう。自分の進路について現時点での考えを明確にすること、社会人としての基礎力を高めること、それが本授業の目標です。

#### (2) 内容

本授業の中心となるのは、企業でのインターンシップ実習です。実習の効果を最大限高めるために、事前・事後の研修と、成果報告会を実施します。

#### (3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：中田順平講師

## 3-2 インターンシップ（PBL 型）（全学共通）

### (1) 学びの意義と目標

就職活動の選考過程で、一昔前よりもインターンシップへの参加経験が重視されてきました。就職活動を行う上で、インターンシップ参加が採用に直結することはありませんが、就職試験でインターンシップを通じた実社会からの学びをアウトプットできるスキルが求められてきたことが1つの要因として考えられています。

本科目は、企業が活動する中で実際に抱えている課題を提供していただき、その解決策（案）を提示する構成から成ります。その過程をインターンシップ PBL 型（PBL：課題解決型授業）とし、ビジネスマナーや正しい言葉遣い、どのような職種にも必要とされる汎用性スキル（コミュニケーション力、課題解決力等）、受益者意識の醸成、課題提供企業の業界の仕組み等を学んでいきます。

本科目での学びは、就職活動のためのみならず、卒業後の社会人人生も含めた「キャリア開発」の1つとして捉えてください。

### (2) 内容

いくつかのグループに分けて、ヴァーチャルカンパニー（企業の課題を解決策を提案するサービス会社）を設立します。前半は、基本的なビジネスマナーや心構えを学び、課題を提供してくださる企業の方に失礼のない行動・言動を身につけます。後半は、課題を提供してくださる企業の方を計2回講義にお招きし、出張講義を行っていただきます。1回目はリアルなその企業の課題提供とその背景説明等、2回目は納品（課題解決策プレゼンテーション）になり、フィードバックを受けます。

課題提供から納品までの間に、各ヴァーチャルカンパニーで課題解決策に向けた情報収集や納品（プレゼンテーション）準備、役割分担等、課題取り組み活動を行います。より完成度の高い納品を行うために、授業外の時間であっても自主的に話し合いの場を設けたりフィールドワークに出向き、情報を収集することを期待します。その際、話し合いの場所確保等が必要な場合は担当教員に申し出てください。また、フィールドワークは担当教員から指示する場合がありますが、自主的、指示のフィールドワークのいずれも原則担当教員も同行します。

なお、納品（プレゼンテーション）は、パワーポイントを使用して行います。

### (3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：吉川臨太郎特任講師

### 3-3 地元学（全学共通）

#### ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため 2020 年度は休講

#### (1) 学びの意義と目標

普段暮らしている「地元」であっても、意外と知らないことは多い。また、最近のまちおこしなどでも、当たり前すぎて気が付かない地元の資産を掘り起こしていく手法も常套である。こうしたことから地元への気づきをどのように行うのか、という手法を大学のある上尾市戸崎をモデルに実践的に学ぶ。手法を理解し、身につけることが目標となる。

#### (2) 内容

「地元学」は、地域とは何か、地域に住むとはどのような関係性の中で暮らすことなのか、そこには大学の学びの専門性とどのようなかわりがあるのか、といった基礎知識と理解をすることを目的とする。そのため、講義及び実際にこの周辺を歩いて学ぶ。実際にフィールドワークを行い、その成果をまとめ、発表するといった流れで、アクティブラーニングを主体とする。

#### (3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：渡辺正人教授

### 3-4 宮原地域学（全学共通）

#### ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため 2020 年度は休講

#### (1) 学びの意義と目標

本学に隣接する宮原地域を対象に、フィールドワークやグループでの討議・作業・発表を軸としたアクティブラーニングを通して、地域の理解を深め、地域の発展に資する学生の役割、調査方法、計画づくりについて学ぶ。

#### (2) 内容

地域社会には、幅広い年齢層の人々が多様な考え方をもち、それぞれの暮らし方を営んでいる。地域での暮らしをより良くするには、居住者ばかりでなく、地域で働き、学ぶ人たちも協力・参画することが望まれる。

本学に接する宮原地域では、約 20 年間にわたり、イベント開催や地域調査などを、地域の方々と学生がともに取り組んできた。本講義では、地元のさいたま北商工協同組合の協力を得て、宮原地区の概要を学ぶとともに宮原地域をより良くするための方策を考える。

なお、グループ作業が多いため、受講生の人数を 40 名に制限する。40 名以上の登録があ

った場合は、上級生を優先する。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：平修久教授

## 3-5 釜石学（全学共通）

---

(1) 学びの意義と目標

聖学院大学と釜石市の提携関係の中、本学学生の釜石地域に対する理解を深め、今後の連携関係を進めてゆく基盤をつくる。

(2) 内容

2011年の東日本大震災で、東北は大きな被害を受けた。東北は、歴史的にも数度の地震やそれに伴う津波による被害を受けながらも、そのたびに立ち上がり、今日を迎えている。それには、東北の持つ風土的な特性があり、そこに暮らす人々の精神性が深く関係していると言われる。そうした東北の中でも、本学と関係を深めてきている釜石市とその周辺を取り上げる。釜石市は、他方ではラグビーの町としてグローバル的な地域でもある。本学の掲げる「グローバル」な場としてのモデルとして考えていく。「東北に生きる」ということを通じて「地域で生きる」ということはどういうことかを、考えてみたい。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：渡辺正人教授、平修久教授、金谷京子特任教授

## 3-6 コミュニティサービスラーニング（CSL）Ⅰ・Ⅱ（全学共通） ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため 2020年度は休講

---

(1) 学びの意義と目標

サービスラーニングは、地域社会や地球規模の問題解決のために活動する学外の組織・施設で社会貢献活動をしながら学ぶ体験学習の手法です。また、そのプロセスにおいては、必要に応じて学生の主体的参加と課題探求・解決を中心にすえた学習方法PBL(Project Based Learning)も用います。この授業では、その準備として基礎知識の習得、活動現場の選択と活動計画づくりを行います。

## (2) 内容

コミュニティサービスラーニングは、事前学習、地域活動、振り返りの流れで学習を深めていきます。コミュニティサービスラーニングⅠでは、活動前の事前学習として、活動に当たっての心構えを学ぶとともに、活動先の調査や活動の計画を立てます。コミュニティサービスラーニングⅡでは計画に基づき、各活動先での活動を行い、その後、活動の振り返りと活動を通した学びについて発表を行います。

## (3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：川田虎男講師

# 3-7 ボランティア体験の言語化技法と実践（全学共通）

## (1) 学びの意義と目標

ボランティア体験を言語化することはなぜ重要なのでしょうか？

まず、体験を通して自分が感じたことを整理したり深く考えたりすることで、社会の問題を自分の課題として考えることができます。また、ボランティアの現場で明らかになった自分の特徴や強み・弱みを再確認して、自己成長に役立てることができます。そして言語化されたボランティア体験は、他者に参加を促し、課題解決を後押しする可能性もあります。

受講者がこれまでに参加したボランティアを、ただ単に体験して終わりではなく、言語化できるようになり、成長につながるようにするのが目標です。

開講前にボランティアに参加している事を前提として授業を進めます。ボランティアの種別や期間は問いません。

## (2) 内容

言語化技法として、自分自身との対話であるボランティア体験を振り返る技法と、外向けの表現としての文章やプレゼンテーション技法を学び、実践します。

ボランティア体験は、小中学校などで経験した地域清掃活動なども含みますが、自身で選択して自発的に参加した体験を想定した内容としています。

講義全体の半分ほどが、文章作成・プレゼンテーション・グループワークなどといった実践となるため、準備学習は必須となります。文章作成は1回以上行い、作成した文章は受講生全員に配布します。プレゼンテーションは、受講者全員に向けたものを1回以上行います。グループワークは、受講者数によって2名から5名程度を1グループとして行います。講義が中心の回は、簡単なレポートを記入していただきます。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：若原幸範准教授、宮腰義仁氏（日本財団学生ボランティアセンター）

## 3-8 被災地支援・インターンシップ A～C（全学共通）

---

(1) 学びの意義と目標

地震、津波、台風・大雨などの自然災害の被災地では、復旧、復興に関する多様な支援を必要とする。関連する活動に携わることにより、災害の復旧・復興の課題、留意点、方策などを学ぶ。被災地の課題や支援ニーズなどを人に説明し、支援のあり方などを考えられるようになることを目標とする。

(2) 内容

本学の定める機関、又は活動の証明が可能な外部機関等で被災地および避難所における復興支援活動を行う。または、被災地の民間企業、NPO、自治体等における実務実習を行う。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：若原幸範准教授

## 3-9 地域活動実習 A～C（全学共通）

---

(1) 学びの意義と目標

地域の問題は、地域住民が協力して対応することが求められる。しかし、高齢化により地域の担い手が減少し、学生を含む若者も地域の運営や維持に関わることが期待されてきている。本科目は、地域の問題・課題を理解し、地域活動に関わり、住民による地域の運営や維持の重要性を学ぶものである。地域の問題・課題を人に説明し、それらの対応策を考えられるようになることを目標とする。

(2) 内容

清掃や高齢者の見回りなど、自治会・町内会などの地縁団体や外部機関等が中心となって地域課題に取り組む活動を実践したり、地域イベントの企画・運営などに携わる。合わせて、それらに関連する必要な事項を外部機関等で学ぶ。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：渡辺正人教授

## ▶ 3-10 ボランティア論・概論（政治経済学部・心理福祉学部）

---

(1) 学びの意義と目標

東日本大震災以降、災害支援のボランティア活動を始め、最近ではオリンピック・パラリンピックボランティアなどが注目されています。このボランティア活動について、改めて自分たちの日常レベルに落として考えると共に、現代社会におけるボランティアの実情と意義を学びます。

「ボランティア=いいこと」という理解ではなく、その問題点も理解した上で、受講生一人一人が自分なりの「ボランティア観」を持てることを目標としています。

(2) 内容

講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。ボランティア・市民活動についての基礎的な知識、また実際の活動内容について学びます。受講人数によっては、参加者同士のグループワークも複数回実施する予定です。

また、課題レポートでは実際の活動に参加した上での感想と考察が求められますので、講義外での活動にも参加していただくことになります。

基礎的なボランティアの知識を身につけるものですので、ボランティアの経験の有無は問いません。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：政治経済学部・心理福祉学部

担当教員：川田虎男講師

## ▶ 3-11 ボランティア実践論（政治経済学部・心理福祉学部）

---

(1) 学びの意義と目標

本講義では、主としてボランティア実践者や今後活動に取り組む者がその活動をより深め広げられるようにすることを目的としています。受講生同士のグループワークを通して、ボランティア活動の質の向上を図るとともに、ボランティア活動を通して、自分自身



が社会とどのような関わることができるのか、それが社会にとってはどのような意味をもつのかについて、自分なりの考えを持ち実践できることを目標としています。

## (2) 内容

本授業においては、ボランティア実践者がより活動の質を高め、社会課題の解決へ貢献を果たすと共に、活動を通じた学びを深められるようになることを目的としています。そのため、授業の形式は、受講生同士のグループワークを中心に行っていきます。受講生の活動報告や活動時の課題についての議論なども想定しており、実際の活動に活かせるような実践的な学びの場を想定しています。

## (3) 担当部門・担当教員名

担当部門：政治経済学部・心理福祉学部

担当教員：川田虎男講師

# ➤ 3-12 埼玉学（人文学部）

---

## (1) 学びの意義と目標

まずは聖学院大学がある「埼玉」という地域の場に視点を設定して、現代のグローバル化した時代に生きるとはどういうことかを、埼玉の歴史、文学、思想、言語、芸術等の多様な視点から考え、大学で学ぶことの意味を、具体的な事象をふまえつつ、大きく広く考えていくことをめざす。

## (2) 内容

人は地域の中で生まれ、育ち、生活をしているが、同時に、生活のなかで、場所的限定をこえて、人間の生き方を考えもする。そして、現代では、生活の場自体が、通有の世界的な問題や状況（人権、経済的困窮など）の中にある。本講座は、地域に生きることと他方でのグローバル化、そうした状況下に生きる私たちを、埼玉・北関東という場を手掛かりに考えていく授業である。

## (3) 担当部門・担当教員名

担当部門：人文学部（2年次必修科目）

担当教員：コーディネイト担当として 氏家理恵教授

## 4. 高大連携

### 4-1 復興支援活動を通じた高大連携

#### (1) 活動の目的と経緯

2011年8月より、本学ではボランティアスタディツアーを実施しています。従来は、春、夏、冬と、計3回のツアーを実施してきました。本ツアーのうち、夏のツアーでは高大連携として、系列校である聖学院中学高等学校とさらには、自由の森学園高等学校と共催し、ツアーの企画作りから大学生・高校生が協働して取り組んでいます。

#### (2) 活動内容と実績

##### ①自由の森学園高等学校との連携協定

自由の森学園高等学校生徒の聖学院大学復興支援ボランティアスタディツアー参加に関する協定

締結日：2018年4月27日

目的：大学が実施する復興支援ボランティアスタディツアーへの自由の森学園高等学校に在学する生徒の参加について、大学は地域連携・高大連携事業の一環として受入れ、実施に当たっては、大学と高校が連携し取り組む。

##### ②よいさっ！プロジェクト7

2020年4月に3校の教職員と本学学生でオンラインでの協議を行った結果、新型コロナウイルス感染症感染拡大への対応から、2020年8月上旬に予定していた復興支援ボランティアスタディツアー「よいさっ！プロジェクト7」は中止となりました。

#### (3) 担当部門

担当部署：ボランティア活動支援センター

### 4-2 高大連携授業

#### (1) 活動の目的と経緯

高大連携の一環として、関わりの深い高等学校生徒に対し、学内で大学教員による講義を行いました。クラーク記念国際高等学校さいたまキャンパスとは、2018年度より、近隣の地域及び埼玉県という地元で活躍できる人材の育成と、両者の知的資源等のリソースの活

用によって当該地域における社会貢献に寄与することを目的に連携が始まり、学内授業を開始しました。2019年度は高大接続授業を受けて入学に結びついた生徒もいました。

(2) 活動内容と実績

2020年度も継続して授業を実施する予定となっていました。新型コロナウイルス感染症感染拡大への対応から、協議の結果2020年度の実施を見送り春・秋ともに授業は中止となりました。

(3) 担当部門

担当部署：入試・広報課

## 4-3 ボランティア関連授業を通じた小中高大連携

(1) 活動の目的と経緯

2015年3月11日に聖学院中学高等学校生徒会企画の「2015.3.11 いま僕たちにできること」への運営協力がきっかけとなり、学生が次世代(高校生)に東日本大震災を語り継ぐプロジェクトを実施しています。また、2019年度より聖学院中学校1年生の総合学習の時間のなかでボランティア活動に取り組む学生と生徒との対話の授業に協力するなど、近年では東日本大震災復興支援活動のみならず、学生たちのさまざまな取り組みの話をきっかけとした授業が企画されています。

(2) 活動内容と実績

日程	場所	実施内容	実施体制
2021年 2月10日(水)	Zoom開催	ボランティア活動経験のある学生たちが、オンライン上で各グループに分かれて、自らのボランティア活動の経験やまちとの関わりを語り、その後学生の進行で生徒と意見交換を行った。	学生7名 職員2名
2月17日(水)	Zoom開催	東日本大震災復興支援活動や防災活動経験者、被災経験者による中学1年生を対象とした防災授業を行った。	学生3名 職員2名

(3) 担当部門

担当部署：ボランティア活動支援センター



## 4-4 その他の学校間連携

---

### (1) 上尾市立南中学校とのSDGsに関する連携事業プログラムの実施について

上尾市立南中学校は聖学院大学と同じ上尾市内で距離が近い事もあり、数年前から中学校と大学の連携事業を実施しています。2020年度も中学3年生を対象にSDGsへの理解を深める授業プログラムを計画していましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大への対応から、中止となりました。4月6日(月)に教職員を対象とした下記の校内研修会のみを実施しています。

#### ①校内研修会

日時：2020年4月6日(月)10:00～11:00

会場：上尾市立南中学校 会議室(2階)

参加者：上尾市立南中学校教職員30名

講師：聖学院大学 地域連携・教育センター所長 渡辺正人教授

内容：持続可能な世界(SDGs)について

### (2) 担当部門

担当部門：大学総務課

## 5.教職員と学生による地域活動

### 5-1 みつけたかおのものがたり～どこでもえほんプロジェクト～ (柴崎裕ゼミ：造形教育論)

#### (1) 活動の目的と経緯

新型コロナウイルス感染症拡大により、保育園や児童福祉施設などでの子どもたちの活動が制限され、子どもたちにとっての新鮮な活動が大幅に減少していました。また、学生たちもオンライン授業がメインとなり、対面活動の制限を余儀なくされました。そこでオンライン授業の課題で制作したパワーポイントを活用した絵本（どこでも絵本）の読み聞かせ



オリジナル絵本の読み聞かせを行う学生

による子どもたちとの関りの場をつくっていくことを目的として活動をスタートさせました。パワーポイントを利用した自作絵本を使うことによってオンライン上での読み聞かせを可能にし、学生ならではの視点からユーモアのある新しい関わりを提供しました。

#### (2) 活動内容と実績

今年度は鶴ヶ島市社会福祉協議会を通じて社会福祉法人白桜会笹久保さくら保育園、福祉法人愛宕会あたご保育園の園児に向けてオンラインでのパワーポイント絵本の読み聞かせや交流活動を行ったほか、上尾市・さいたま市を拠点に活動している認定NPO法人彩の子ネットワークが事務局となって実施している「子ども☆夢☆未来フェスティバル 2021」のプログラムの1つとして同様の活動を行いました。

##### ①社会福祉法人白桜会笹久保さくら保育園とのオンラインプログラム

日程：2020年8月24日(月) 園児・保育士：約25名 学生4名

##### ②社会福祉法人愛宕会あたご保育園とのオンラインプログラム

日程：2020年12月11日(金) 園児・保育士：約25名 学生12名

##### ③「子ども☆夢☆未来フェスティバル 2021」でのオンラインプログラム

日程：2021年3月21日(日) 親子：9組 学生8名

#### (3) 担当部門

担当部門：人文学部児童学科

担当教員名：柴崎裕特任教授

## ➤ 5-2 アッピー応援隊（寺崎恵子ゼミ：教育文化論）

### (1) 活動の目的と経緯

2014年より、NPO法人AGETTOの依頼を受けて、上尾市のゆるキャラ「アッピー」を上尾市内の保育所・幼稚園の子どもたちに親んでもらうこと、学生が、保育所・幼稚園の子どもたちと交流し子どもたちに喜びを届けることを目的として活動を行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大への対応から、活動は中止となりました。

### (2) 担当部門

担当部門：人文学部児童学科

担当教員：寺崎恵子准教授

## ➤ 5-3 パワフルキッズ（金谷京子ゼミ：発達心理）

### (1) 活動の目的と経緯

埼玉県から依頼を受け、一般社団法人すくすく広場、シラコバト団地自治会と連携し、上尾市にある県営上尾シラコバト団地の活性化につながる子どもたちのあそび場の提供を行っています。ハロウィンやクリスマスなど季節にあわせたイベントを継続して実施しています。



感染症対策を行いながら子どもたちにプレゼントを配布する学生

### (2) 活動内容と実績

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、外遊びを行ったほか、子どもたちに集会室にプレゼントを取りに来てもらいシールド越しに手渡し、もしくは、団地内の子どもたちには家のドアノブにプレゼントをかけて配布を行いました。

#### ①ハロウィンイベント

日程：2020年10月24日(土) 子ども：14名 学生：3名

#### ②クリスマスイベント

日程：2020年12月12日(土) 子ども：20名 学生：2名

(3) 担当部門

担当部門：人間福祉学部こども心理学科／心理福祉学部心理福祉学科

担当教員名：金谷京子特任教授

## 5-4 上尾市平方河岸文化の保存活動

(4) 活動の目的と経緯

地元の有志で構成された「平方河岸文化を活かす会」より 2019 年 9 月に平方の河岸の失われてゆく河岸文化やその痕跡についてまとめるため、協力の依頼があり、現地調査として日本文化学科の学生 2 名と共に地元の方の聞き書き調査を行いました。



かつて河岸があった場所

(5) 活動内容と実績

①地元の方への聞き書き調査

実施期間：2019 年 12 月～2020 年 2 月

調査内容：3 名の地元の方（平方在住）への聞き書き調査

参加人数：学生 2 名 教職員 1 名

協力団体：平方河岸文化を活かす会・NPO 法人荒川の自然を守る会

②調査内容のまとめと報告

実施スケジュール：2020 年 2 月 平方まちあるきのためのリーフレット作成

2021 年 3 月 調査内容について「上尾市平方河岸集落と殖産興業：近代が地方都市に及ぼした影響」と題して、論文としてまとめたいうで発表を行いました。

(6) 担当部門

担当教員：渡辺正人教授（基礎総合教育部）

## 5-5 聖学院大学総合図書館による地域連携活動

### (1) 活動の目的と経緯

総合図書館の活動テーマの一つに「リエゾン」(連携)というキーワードがあり、教員・職員・学生だけでなく、地域社会との連携を推進する活動を積極的に行っています。

### (2) 活動内容と実績

#### ①図書館の市民(高校生・一般)への開放

総合図書館は、18歳以上であれば、どなたでも利用者登録を行って図書館を利用できます。(ただし、他大学の学生・院生の方は、利用者登録はできませんが、所属大学の紹介状と利用者証または埼玉県大学・短期大学図書館共通閲覧証を持参いただければ利用が可能です。)また、高校生に関しても、土曜日と閉講期間中の平日の開館日は館内閲覧等の利用が出来るようになっています。しかし、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により市民への開放は一時中止となりました。

#### ②ビブリオバトルの開催

全国大学ビブリオバトルの地区予選会の開催、「高校生ビブリオバトル・ワークショップ」の運営協力など、ビブリオバトルをとおした交流や読書推進活動を計画していましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全て中止となりました。

#### ③公開イベント in OKEGAWA hon プラス+の実施

JR 桶川市駅前にあるおけがわマイン3階のOKEGAWA hon プラス+にて、毎年9月と2月に公開イベントを開催していましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全て中止となりました。

#### ④「図書館と県民のつどい埼玉」への参加

埼玉県図書館協会等が主催で毎年12月に開催している「図書館と県民のつどい埼玉」は、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催となりました。本館が参加する大学図書館部会の合同展示もオンライン展示となり、展示資料をオンライン公開しました。

#### ⑤埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)による連携

SALA 設立時から運営に参画し、幹事館として幹事会運営に参加しています。SALA をとおして、埼玉県内の大学、短期大学、研究機関等加盟機関と連携をしています。



「図書館と県民のつどい埼玉 2020」オンライン展示画像より



(3) 担当部門

担当部門：総合図書館

## 5-6 ハローコーナーニュース ベトナム語版の発行に関わる翻訳

(7) 活動の目的と経緯

上尾市の外国人市民の人口は 2021 年 6 月現在、4,000 人を超え過去最多となりました。上尾市は、多文化共生を推進しており、外国人市民向けサービスの充実に力を入れています。そのサービスの一つとして、外国人市民のためのニュースレター「ハローコーナーニュース」が発行されており、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語などに翻訳されています。



ベトナム語翻訳講座の様子

市民協働推進課のご担当者より、近年増加傾向にあるベトナム国籍市民向けに「ハローコーナーニュース ベトナム語版」を発行したいとお話をいただき、本学のベトナム人留学生が協力することになりました。上尾市の外国人市民への情報提供のお手伝いを通して、より良い地域づくりに貢献することを目的としています。

(8) 活動内容と実績

今年度は、11月号から4月号まで、毎月一回発行される「ハローコーナーニュース ベトナム語版」を作成しました。ベトナム語版の作成にあたっては、留学生センターで「ベトナム語翻訳講座」を開設し、グエン ヴァン アイン先生に翻訳のご指導、監修をしていただきました。留学生は、自分の担当した箇所を翻訳し、グエン先生のチェックを受けながら、修正を重ね、期日までに完成させます。発行されたハローコーナーニュースは、ハローコーナー（窓口）で配布されるとともに、上尾市のホームページにも掲載されています。

・ハローコーナーニュース 2020年11月号～2021年4月号（全6号分）

・実施期間：10月9日～3月31日

\*「ベトナム語翻訳講座」は、毎週木曜日と金曜日に開講。

・参加人数：学生8名 教職員1名

・連携先：上尾市市民協働推進課

(9) 担当部門

担当部門：留学生センター

担当教員：岡村佳代教授、Nguyen Van Anh（グエン ヴァン アイン）講師

## ➤ 5-7 ほたる祭り

---

(1) 活動の目的と経緯

本学では1960年代まで大学周辺に棲息し身近に親しまれていたほたるの再生に取り組んでいます。大学内で自生するほたる(\*)は他に例がなく、2004年に「ほたるのビオトープ～ひかりのせせらぎ～」が完成して以来、ほたるが飛翔する季節に合わせてほたる祭り実行委員会主催の「ほたる祭り」を開催しています。

\*「大学内で自生するほたる」とは、学内に整備しましたほたる用のせせらぎで、卵から誕生した幼虫が約10か月水中で成長し、5月の連休の前後にせせらぎから上陸して土手にもぐり、約1か月さなぎとしてすごした後に、羽化して成虫になったことを意味しています。

(2) 活動内容と実績

2020年6月13日(土)に実施予定であった2020年度第17回ほたる祭りは、新型コロナウイルス感染症感染拡大への対応のため中止となった。

(3) 担当部門

担当部門：ほたる祭り実行委員会、ボランティア活動支援センター

担当教員名：平修久教授

## 5-8 復興支援“オンライン”スタディツアー

### (1) 活動の目的と経緯

聖学院大学では「神を仰ぎ 人に仕う」という建学の精神に基づき、東日本大震災直後より様々な支援活動を展開してきました。2011年8月より実施している復興支援ボランティアスタディツアーは2019年12月まで計26回実施してきましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、現地に出向いての活動が出来ない状況となりました。そのようななかで、復興支援ボランティアチーム SAVE の学生とボランティア活動支援センターの教職員でアイデアを出し合い、現地とオンラインでつながり、震災学習や現地の魅力に触れる機会としてオンラインでのスタディツアーを実施しました。



学生によるオンラインプログラム実施の様子

### (2) 活動内容と実績

日程：2020年8月29日(土)～30日(日)

実施内容：映像による震災学習、復興支援ボランティアチーム SAVE プロジェクトリーダーとボランティア活動支援センター職員による釜石市内の被災地見学と名所めぐり、復興支援ボランティアチーム SAVE プロジェクトリーダーによる釜石お土産紹介とクイズ、浜辺の料理宿「宝来館」岩崎女将のお話、高橋和義牧師による礼拝とお話、振り返りの会

参加者数：学生 17名 教職員 14名

### (3) 担当部門

担当部署：ボランティア活動支援センター

## 5-9 ボラフェス！

### (1) 活動の目的と経緯

日頃学生がボランティア活動でお世話になっている福祉作業所や卒業生が働く福祉作業所の取り組みや製品を学生や教職員、地域の方々に紹介することを主な目的として実行委員会主催のフェスティバルを本学学園祭「ヴェリタス祭」のなかで実施しています。

### (2) 活動内容と実績

2020年10月30日(金)、31日(土)に予定されていた本学学園祭「ヴェリタス祭」が、新型コロナウイルス感染症感染拡大対応のため、在学生対象にインターネット上で「オンラインヴェリタス祭」に実施形態が変更となったことを受け、2020年度の「ボラフェス！」は中止となりました。

### (3) 担当部門

担当部門：ボラフェス実行委員会・ボランティア活動支援センター

担当教員：相川章子教授

## 5-10 未来をひらく～私と3.11のこれまでとこれから～

### (1) 活動の目的と経緯

埼玉の地で改めて、東日本大震災で起きたことを知り、考えることで風化を防ぐ機会にしたい、また復興支援活動に取り組む学生たちのネットワーキングの場にしたいと考え、埼玉県防災学習センターとの共催で、復興支援活動を継続する関東圏の学生による実行委員会形式によるイベントを実施しました。



座談会の様子

### (2) 活動内容と実績

東日本大震災から10年を迎える2021年。改めて被災地との関りを振り返るとともに、これからについて考える機会として、2年前に実施した「未来をひらく」プロジェクトを実施しました。本学主催の復興支援ボランティアスタディツアーにおいても訪問させていた

だいた宮城県石巻市立旧大川小学校の校歌「未来をひらく」からのメッセージと、講演してくださった佐藤敏郎先生の「この大川小学校を悲劇の場所ではなく、未来をひらく場所として語られる場所にしたい」とのメッセージを受け止め、被災地そして被災者から私たちは何を学び取り、そしてその学びをどう未来につなげていくのか、参加者一人一人が向き合い、語り合い、実践につなげる機会として以下通りボランティアサミットを実施しました。新型コロナウイルス感染症への対応から、イベントを全面オンライン化し実施しました。

日 時： 2021年2月27日(日)～28日(月)

会 場： オンライン開催

実施内容： 佐藤敏郎先生（小さな命の意味を考える会）・菊池のどかさん（いのちをつなぐ未来館職員）による講演会、佐藤敏郎先生・菊池のどかさん、副実行委員長2名による座談会、グループワーク、懇親会、防災講座

### (3) 担当部門

担当部門： ボランティア活動支援センター

## 5-11 特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進

### (1) 活動の目的と経緯

高齢化が進む古い団地の活力を向上させるため、団地の一部を学生と子育て世帯向けの部屋に改修し、若い世代が入居するという埼玉県住宅課のモデル事業の一環として、本学の学生が県営シラコバト住宅に入居しながら自治会活動等を通じてコミュニティの活性化に取り組んでいます。

### (2) 活動内容と実績

2021年3月末時点で、1名の学生が入居しています（留学生1名）。2019年度学生たちは以下の活動に取り組みました。

#### ① 各棟での清掃活動への参加

入居学生は各棟で定められた清掃活動に参加しています。清掃活動は各棟の入居者による当番制となっています。

#### ② シラコバト住宅自治会主催 芋煮会と餅つき大会

シラコバト住宅自治会が主催する芋煮会と餅つき大会については新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止になりました。

#### ③ コミュニティスペース ミラコバトでの子育て支援ボランティア

2017年3月20日(月・祝日)に特別県営上尾シラコバト住宅のなかに「コミュニティスペース ミラコバト」が開設されたことを受けて、人間福祉学部こども心理学科／心理福

祉学部心理福祉学科金谷京子特任教授による以下の子育て支援のプログラムが実施されました。

- i) 2020年10月24日(土)ハロウィンイベント
- ii) 2020年12月12日(土)クリスマスイベント

(3) 担当部門

担当部署：大学総務課地域連携・ボランティア支援チーム

## ➤ 5-12 子ども大学 あげお・いな・おけがわ

---

(1) 活動の目的と経緯

埼玉県教育局、上尾市教育委員会、桶川市教育委員会、伊奈町教育委員会、日本薬科大学と本学で組織された子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会の主催で実施しています。3市町の異なる学校から参加する小学5・6年生の子どもたちが大学のキャンパスで学ぶ子どものための大学で、教員が本学の特色を生かした学びをわかりやすく教えています。

(2) 活動内容と実績

2020年度「子ども大学 あげお・いな・おけがわ」は新型コロナウイルス感染症感染拡大対応のため、中止となりました。

(3) 担当部門

担当部門：地域連携・教育センター

担当教員：氏家理恵教授（実行副委員長）、松井慎一郎教授（実行委員）

## ➤ 5-13 釜石市保育士インターンシップ

---

(1) 活動の目的と経緯

2014年1月29日に締結した、聖学院大学と釜石市の連携協定に基づき、釜石市より、「市の保育士が減少傾向にあり、保育専攻の学生に釜石市での就職を検討いただきたい。」という相談があり、総務企画部 総合政策課と保健福祉部子ども課との連携し、2019年度より釜石市内の保育園で保育専攻の学生が希望制でインターンシップを行うことができるツアーを実施しています。

(2) 活動内容と実績

2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大対応のため中止となった。

(3) 担当部門

担当部門：地域連携・教育センター

## 5-14 大谷地区自主防災啓発事業

(1) 活動の目的と経緯

上尾市との包括連携協定に基づき、大学近隣の上尾市大谷支所と連携し、大谷地区の自主防災会でリーダーを担っている地域の方々と学生がともに防災について学び、自主防災意識の向上を図るために実施しています。

(2) 活動内容と実績

2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大対応のため中止となりました。

(3) 担当部門

担当部署：地域連携・教育センター

## 5-15 オール上尾市民活動ネットワークとの連携

(1) 活動の目的と経緯

NPO オール上尾市民活動ネットワークは、100年後の子どもたちの未来のために『いい地域』をバトタッチすることを目指して、市民が抱える諸課題について調査研究し、効果的な対話と学習を通じて、会員が合意した内容について公平公正な立場で情報を発信し、実践することを目的として2015年に発足した団体です。現在60名程のメンバーが所属しているこちらのネットワークより、本学に対して、SDGs チームのアドバイザー就任への依頼があり、就任をすることになりました。

(2) 活動内容と実績

① ネットワーク SDGs チームにアドバイザーとして参加

アドバイザー就任後はSDGs チームのアドバイザーとして必要に応じて会合に参加。聖学院大学として、上尾市のSDGs 推進に向けてどのような貢献が行えるか等についても情報提供を行っています。

②2021 春「SDGs 実践事例学習交流会」の共催

「SDGs のまちづくり」について実践事例から学び、交流し、繋がりづくり（仲間づくり）することで市の体制づくりを支援することを目標に、イベントの準備を進めています。本学も共催校として、2021 年 5 月 16 日に第 1 回の開催を予定しています。

(3) 担当部門

担当部門：地域連携・教育センター

担当教員：渡辺正人教授



## 6.公開講座

### 6-1 聖学院大学公開講座

#### (1) 学びの意義と目標

大学では、さいたま市教育委員会・上尾市教育委員会と共催して、聖学院大学公開講座を実施しています。大学の持つ機能を地域に開放し、地域と大学の連携を図るとともに、市民の高度かつ専門的な学習意欲にこたえるため、また、生涯現役であり続けたい方や社会人としての知識やスキルを高めたい方、豊かな教養を身につけたい方を対象に「人生 100 年時代」に向けた社会人教育を行っています。

#### (2) 内容

内容としては、第一講座（教養講座）、第二講座「役に立つ英会話講座」、第三講座「パソコン講座」、第四講座「女声コーラス」、第五講座「初級手話講座」の5講座があります。

2020 年度は以下の公開講座の実施を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となりました。

①受講期間：当初、2020 年 5 月 9 日～7 月 11 日までの毎土曜日（10 回）の実施を予定していました。

#### ②講座内容と講師：

第一講座「世界の中の日本—人文学の諸相—」 定員：40 名

講師：村松晋教授 松井慎一郎教授 濱田寛教授 木下綾子准教授 氏家理恵教授

和田光司教授 村瀬天出夫准教授 松本祐子教授 東仁美教授 小池茂子教授

第二講座「役に立つ英会話講座」 定員：30 名

講師：J. ナイチンゲール H. マイケル

第三講座「パソコン講座」 定員：40 名

講師：埼玉 SOHO（NPO 法人）所属講師

第四講座「女声コーラス」 定員：80 名

講師：藤田明

第五講座「初級手話講座」 定員：30 名

講師：サインズミッション所属講師

#### (3) 担当部門

担当部署：大学総務課

## 6-2 履修証明プログラム

### (1) 学びの意義と目標

大学等では、これまでも科目等履修生制度や公開講座等を活用して、その教育研究成果を社会へ提供する取組が行われてきましたが、より積極的な社会貢献を促進するため、学生を対象とする学位プログラムの他に、社会人等の学生以外の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書（Certificate）を交付できることになりました（法第105条等）。本学でも、2016年度より、履修証明プログラムを開設しています。

### (2) 内容

2020年度は以下の3つのプログラムが設定されていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、受け入れを中止しました。

#### ①「グローバル世界の文化的諸相」プログラム

現代の国際社会ではいわゆるグローバル化が進んでいるが、文化的側面においてもその影響が見られる。情報・財・人の交流が激しくなり、文化状況は一国単位で語ることが難しくなっている。日常生活の規範としての倫理もまたグローバル世界における多文化共生を視野に入れたものへの変容を迫られつつある。そのようなグローバル世界成立の歴史的端緒、映像など表象文化におけるグローバル的側面、グローバル的多文化状況に対する倫理的対応などを学ぶ。

#### ②「基礎から学べる英語」プログラム

このプログラムは英語を基礎から復習し、資格試験の受検準備をしたい人を対象に開設されるものである。基礎から学び直したい場合はTOEIC(初級)からの履修が望ましい。TOEIC(中級)、Speech & Debateの履修を希望する場合は、TOEIC350点以上を取得していることが履修条件となる。授業ではペアやグループでの活動もあるので積極的な参加が求められる。また、中間試験や期末試験以外にも単語の小テストや課題などが課されるので、授業以外に予習・復習が必要である。

#### ③「福祉横断」プログラム

このプログラムは、社会福祉の制度・政策を学びたい人を対象に開設されたものである。社会福祉の制度は、われわれが安心して生活を送るために、世代を超えて普遍的に必要とされるものである。しかし、制度は年々複雑化しているためそれぞれの制度の内容を理解することは難しい。このプログラムでは、複雑に入り組んだ現在の日本の福祉制度を網羅的に学び、日本の福祉制度・政策の全体像と各制度の具体的内容を学ぶ。

(3) 担当部門

担当部署：教育支援課

## 6-3 社会人を受け入れる教育プログラム

(1) 学びの意義と目標

聖学院大学では、社会人の学びの機会として「社会人入学制度」「科目等履修生制度」「聴講生制度」を定めています。科目等履修生は、大学において授業を受けた学生同様試験をクリアすることで単位の修得が可能です。単に修得は希望せず、授業のみを受講されたい方には、聴講生として聴講していただくことができます。その他に埼玉県と連携した大学の開放授業講座（リカレント教育）も行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、受け入れを中止いたしました。

(2) 内容

①社会人入学制度

i) 出願資格

社会的経験(正社員、自営業従事者、契約社員、長期アルバイト、主婦)を有する者で、各学科が求める学生像に適し、以下のいずれかに該当する者。

- ・高等学校を2013年3月31日以前に卒業した者。
- ・通常の課程による12年の学校教育を2013年3月31日以前に修了した者。
- ・高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると2013年3月31日以前に認められた者。

②科目等履修生制度・聴講生制度

i) 入学資格

- ・高等学校を卒業した者、または通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- ・高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

ii) 審査方法：書類審査

iii) その他

- ・科目等履修生・聴講生は聖学院大学総合図書館を利用することができます。
- ・科目等履修生・聴講生ともに履修できる科目数および単位数は、原則として1学期4科目12単位までとなります。

③リカレント教育

埼玉県内在住の55歳以上の方を対象に、生活の充実や社会参加のきっかけづくりとして、埼玉県内の22大学と埼玉県が連携して授業科目の一部を開放しています。一般の学生と一緒に学びますが、単位の認定はありません。

(3) 担当部門

担当部門：教育支援課

## 7.地方自治体の委員会・審議会等の委員

※本内容は聖学院大学ホームページ「教員情報」(<https://www.seigakuin.jp/about/faculty/>)に2021年6月1日時点で掲載されている情報を元に作成しています。

氏名	所属	職名	委員名
清水正之		学長	さいたま大学コンソシアム委員 副委員長
石川裕一郎	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市人権施策推進協議会
石川裕一郎	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市男女共同参画審議会
森分大輔	政治経済学部 政治経済学科	教授	春日部市総合政策審議会委員
猪狩廣美	政治経済学部 政治経済学科	特任教授	上尾市コンプライアンス審査委員会
猪狩廣美	政治経済学部 政治経済学科	特任教授	川島町行政改革推進委員会委員
竹井潔	政治経済学部 政治経済学科	特任教授	上尾市協働のまちづくり推進事業選考委員会委員長
平修久	政治経済学部 政治経済学科	特任教授	上尾市街づくり推進会議会長
平修久	政治経済学部 政治経済学科	特任教授	上尾市総合計画審議会
平修久	政治経済学部 政治経済学科	特任教授	吉川市市民参画審議会
平修久	政治経済学部 政治経済学科	特任教授	八潮市市民活動推進委員会
長嶋佐央里	政治経済学部 政治経済学科	准教授	春日部市総合振興計画審議会委員
若原幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	さいたま市社会教育委員
若原幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市市民活動推進協議会委員
若原幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市立南中学校学校運営協議会委員
若原幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	稚内市子どもの貧困対策プロジェクト会議委員
渡辺英人	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市情報公開・個人情報保護審査会委員
渡辺英人	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市情報公開・個人情報保護運営審議会委員長
渡辺英人	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市政治倫理審査会

氏名	所属	職名	委員名（日本語）
氏家理恵	人文学部 欧米文化学科	教授	子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員
松井慎一郎	人文学部 日本文化学科	教授	子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員
井上兼生	人文学部 日本文化学科	特任教授	上尾市教育委員会の令和2年度（平成31年度実施事業）点検評価における第三者評価者
熊谷芳郎	人文学部 日本文化学科	特任教授	埼玉県立大宮武蔵野高等学校学校評議員
横山寿世理	人文学部 日本文化学科	准教授	埼玉県立大宮光陵高等学校学校評議員
小池茂子	人文学部 児童学科	教授	神奈川県生涯学習審議会委員
小池茂子	人文学部 児童学科	教授	さいたま市公民館運営審議会委員
小池茂子	人文学部 児童学科	教授	神奈川県生涯学習審議会委員
田澤薫	人文学部 児童学科	教授	上尾市子ども・子育て会議委員
田澤薫	人文学部 児童学科	教授	埼玉県立上尾かしの木特別支援学校学校評議員
田澤薫	人文学部 児童学科	教授	埼玉県立蓮田特別支援学校学校評議員
田澤薫	人文学部 児童学科	教授	北本市子ども・子育て会議
相川徳孝	人文学部 児童学科	特任教授	春日部市子育て支援審議会
齋藤一雄	人文学部 児童学科	特任教授	さいたま市立ひまわり特別支援学校学校評議員
齋藤一雄	人文学部 児童学科	特任教授	上尾市就学支援委員会委員
寺崎恵子	人文学部 児童学科	准教授	上尾市幼児教育振興協議会第1号委員
寺崎恵子	人文学部 児童学科	准教授	杉戸町図書館協議会
古谷野亘	心理福祉学部 心理福祉学科	特任教授	上尾市地域包括ケアシステム推進協議会委員長
古谷野亘	心理福祉学部 心理福祉学科	特任教授	上尾市成年後見制度利用推進事業委員委員長

氏名	所属	職名	委員名（日本語）
古谷野亘	心理福祉学部 心理福祉学科	特任教授	杉並区健康長寿モニター事業 運営委員
古谷野亘	心理福祉学部 心理福祉学科	特任教授	杉並区長寿応援ポイント事業 運営委員会委員
古谷野亘	心理福祉学部 心理福祉学科	特任教授	杉並区介護保険運営協議会 委員長
小沼聖治	心理福祉学部 心理福祉学科	助教	桶川市障害福祉計画等策定 委員会委員長
小沼聖治	心理福祉学部 心理福祉学科	助教	春日部市空家等対策協議会 委員
相川章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	日高市障害者地域総合支援協議 会（会長）
相川章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	上尾市いじめ問題調査委員
相川章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	さいたま市精神医療審査会 委員
相川章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	上尾市教育委員会特別支援 教育推進委員会委員
相川章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	上尾市障害福祉施策推進委員会 委員長
相川章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	川口市地域保健審議会委員/川 口市地域保健審議会部会（自殺 対策計画策定会議）（部会長）
相川章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	埼玉県精神保健福祉審議会 委員
相川章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	入間西障害者地域総合支援協議 会会長
田村綾子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	上尾市地域福祉推進協議会 会長
中谷茂一	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	北本市いじめ問題調査委員会 委員
中谷茂一	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	川島町子ども・子育て会議 議 長
中谷茂一	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	埼玉県子どもの権利擁護委員会 調査専門員

氏名	所属	職名	委員名（日本語）
岡村佳代	基礎総合教育部	教授	上尾市多文化共生推進計画 策定委員会 委員長
渡辺正人	基礎総合教育部	教授	上尾市文化センター及び イコス上尾指定管理選定委員
渡辺正人	基礎総合教育部	教授	上尾伊奈斎場つつじ苑及び 瓦葺ふれあい広場指定管理 選定委員
塩崎亮	基礎総合教育部	准教授	都立図書館在り方検討委員会委 員
倉田芳弥	基礎総合教育部	特任講師	八潮市多文化共生推進プラン策 定委員
川田虎男	ボランティア活動支援 センター	専門職員	上尾市社会福祉協議会上尾市ボ ランティアセンター運営委員委 員長
川田虎男	ボランティア活動支援 センター	専門職員	埼玉県社会福祉協議会埼玉県ボ ランティア・市民活動センター 運営委員
川田虎男	ボランティア活動支援 センター	専門職員	さいたま市高齢者生活支援推進 協議会委員長



## 8. 聖学院大学地域連携・教育センターのご案内

本学では「聖学院大学 地域連携・教育方針」（第1章 1-1 参照）に基づき、地域連携・教育センターを拠点として、地域を対象にした学び、地域を対象とした研究、地域への貢献に取り組んでいます。また、本学では主に、自治体、NPO・市民活動団体等の皆様からの連携相談に応じています。下記、地域連携・教育センターにお寄せいただくご依頼事例を参考いただき、お気軽にご相談ください。

### (1) 教員との連携について

- ・教員に講師として登壇してほしい
- ・教員に委員会の委員として就任してほしい

### (2) 学生との連携について

- ・部・同好会等の学生団体にイベントに出演してほしい
- ・学生ボランティアを募集したい

### (3) 教員・学生との連携について

- ・地域の課題解決に向けて教員や学生と連携したい

これ以外にも、本学では今後、企業との共同研究や社会貢献活動等にも力を入れていきたいと考えています。企業の皆様からのアイデアも随時受付いたします。

問い合わせ先 聖学院大学地域連携・教育センター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

TEL: 048-781-0079

E-mail: reco-edu@seigakuin-univ.ac.jp

## 聖学院大学 地域連携事業報告書 2020

2021年7月発行

---

### 発行

#### 聖学院大学地域連携・教育センター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

TEL: 048-781-0079

E-mail: reco-edu@seigakuin-univ.ac.jp

URL: [https://www.seigakuin.jp/about/community\\_relations/](https://www.seigakuin.jp/about/community_relations/)